

情報発信・啓発

1. 広報等による啓発



・「ごみ・リサイクルカレンダー」の全戸・事業者への配布や「ごみ分別アプリ」、ホームページなどを活用したルール周知と啓発

2. 環境学習等の機会の拡充



・市内へ転入された方への、「プラスチック類、ガラス類・陶磁器類」などの資源物の分別周知や、「スプレー缶」「小型充電式電池」などのごみ混入防止のための説明会実施

・環境ポスターコンクールなど、次世代への環境学習の機会の充実

協働の取組み

3. 協働事業の拡充



・廃棄物減量等推進員との協働により、ごみ出し状況の見回りや「ごみ減量だより」の作成・回覧、啓発イベントの開催

4. 環境美化活動



・自治会や管理組合などの地域団体による資源集団回収の促進

・市民、事業者及び土地所有者と市が協力した、「多摩川清掃」や「環境美化市民運動」などの環境美化活動の実施

家庭ごみ

5. 発生抑制、排出抑制、再使用の促進



・生ごみの発生抑制及び排出抑制について、水切りや無駄のない調理方法のアイデア募集・紹介

6. 資源化の促進



・「食品ロス」削減に向けた「てまどり」や「フードドライブの有効活用」の取り組み促進

7. 家庭ごみの有料化継続



・「日本リユース機構」と連携した不用品回収の促進

・インカートリッジ等の店頭回収拡大や家庭用生ごみ処理容器の購入助成などによる資源化の促進

・有料ごみ袋手数料適正化（4年に1度見直しの検討）

事業系ごみ

8. 事業者への啓発・指導



・ごみ減量指導マニュアルの配布や排出事業者向け講習会などによる、事業者の意識改革

9. 減量及び資源化の促進



・クリーンセンター多摩川での搬入物検査の強化による、分別徹底と適正排出の促進

10. 手数料の適正化に向けた検討



・「食品ロス」削減に向けた、食べきりキャンペーンや「フードシェアリングサービス」の取り組み促進

・事業系一般廃棄物手数料の適正化（4年に1度見直しの検討）

収集・運搬

11. 効率的な収集体制の確保



・環境や、高齢者・障害をお持ちの方へ配慮しつつ、将来的な収集回数等の見直しも含めた、効率的な収集運搬

中間処理・最終処分

12. 適正な中間処理と安定的な管理運営



・多摩川衛生組合と連携した、クリーンセンター多摩川での環境保全対策及び発電と余熱利用を含めた適正な中間処理体制の維持

13. 埋立処分量ゼロの継続



・民間事業者と連携した、災害発生時のごみ収集運搬

・循環組合と連携した、焼却灰のエコセメント化等による埋立処分量ゼロの継続、生産されたエコセメント製品の利用促進

・事業継続のため、焼却施設（クリーンセンター多摩川）及びエコセメント化施設の延命化

・「三多摩は一つなり交流事業」等の実施を通じた、エコセメント化への周知・啓発



第三次稲城市一般廃棄物処理基本計画（概要版）令和6年4月発行

稲城市生活環境課 ごみ・リサイクル係
東京都稲城市東長沼2111番地 稲城市役所
TEL : 042-378-2111 FAX : 042-377-4781
https://www.city.inagi.tokyo.jp/

「5R+1[協働]の推進による循環型まちづくり」



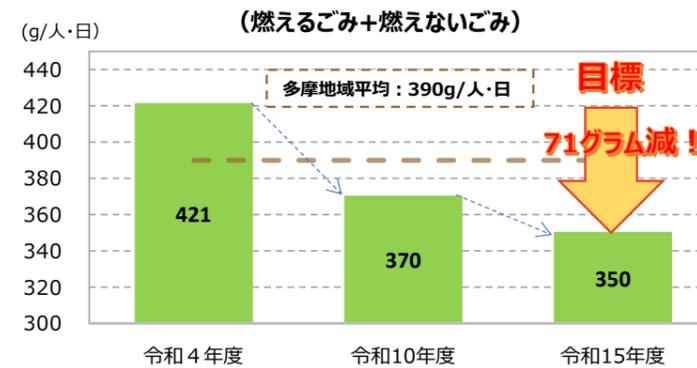
第三次 稲城市一般廃棄物処理基本計画（概要版）

「一般廃棄物処理基本計画」について

「廃棄物処理法第6条第1項」により市に策定が義務づけられている計画で、市民や事業者、行政がそれぞれの役割と相互協力に基づき、長期的にごみ減量・5Rを推進していくための総合的な指針となるものです。「ごみ処理基本計画」の他、「食品ロス削減推進計画」、「生活排水処理基本計画」も本計画に含まれます。計画期間を令和6～15年度の10年間、目標年度を令和15年度とし、概ね5年で見直すとともに、社会経済情勢の変化等により必要に応じて見直しを行います。

計画の目標

市民1人1日あたりのごみ排出量



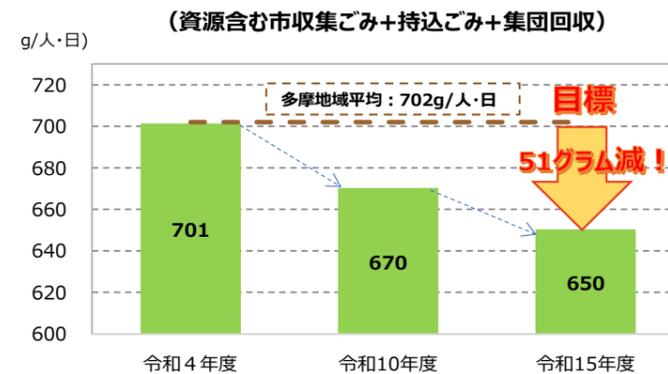
市民の皆様へお願い

目標達成まで1人1日あたり**71グラム**の減量が必要です。皆様の少しの工夫でごみは減らせます。できることから一緒に始めていきましょう。

▶70グラムってどのくらい?



市民1人1日あたりの総排出量



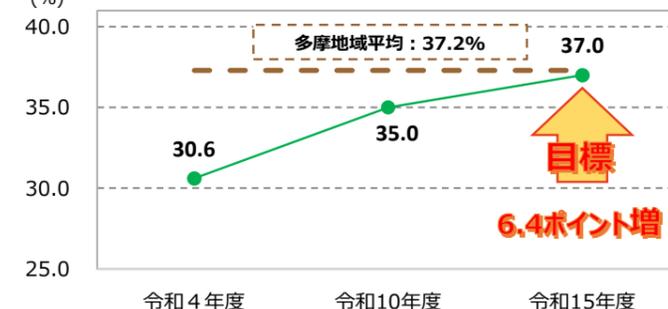
市民と事業者の皆様へお願い

目標達成まで1人1日あたり**51グラム**の減量が必要です。プラスチックごみは、軽くすすぐなどして汚れを取り除くことで資源として生まれ変わります。皆様の毎日の心掛けでごみは減らせます。

▶50グラムってどのくらい?



資源化率



▶資源化率の求め方

$$\text{資源化率} = \frac{\text{資源化量}}{\text{ごみ量} + \text{資源物量}} \times 100$$

リサイクルできるものはこのマークが目印!



基本理念

5R+1
ファイブアール
プラスワン

「協働」の推進による循環型まちづくり

Refuse リフューズ

発生抑制の推進
必要じゃないものを断る



ごみになるものは断る

マイバックを使う

本当に必要か考える

Reduce リデュース

排出抑制の推進
使う量を減らしごみとなる量を減らす



食品ロスの削減

生ごみは水切りをする

詰替えてできる商品を選ぶ

Recycle リサイクル

再資源化の推進
再利用できるものを資源として
また利用する



資源物は分別する

リサイクル製品を買う

Reuse リユース

再使用の推進
まだ使えるものを工夫して再び使う



なおして使う「おもちゃの病院」

フリーマーケットへ参加する

Respect リスペクト

敬意を表し大切に
物や生産者に敬意を持ち大切に使う



作った人に敬意を持つ

残さず食べ切る

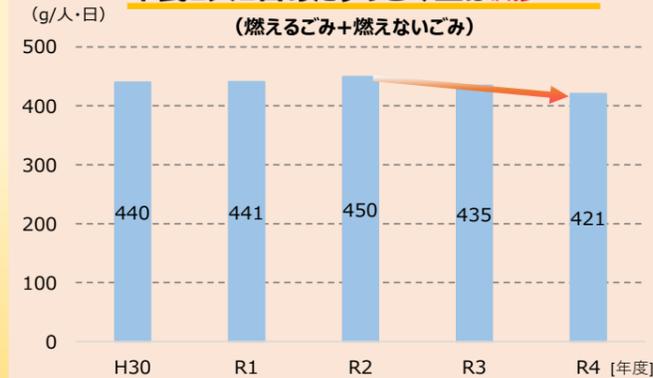
物を大切に扱う

Cooperation コオペレーション

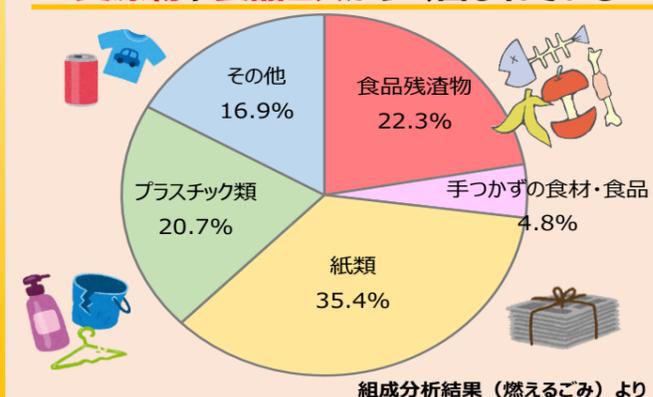
協働
みんなに役割がある



市民1人1日あたりのごみ量は減少



資源物や食品ロスが多く含まれている

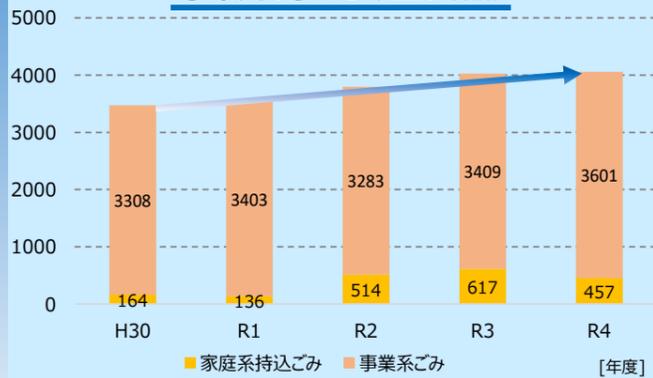


資源化率は多摩地域平均と比べて低い



家庭ごみの課題 ▶ ①5R+1[協働]の周知・啓発
②さらなるごみ減量
③正しい分別の徹底

事業所からのごみ量は増加



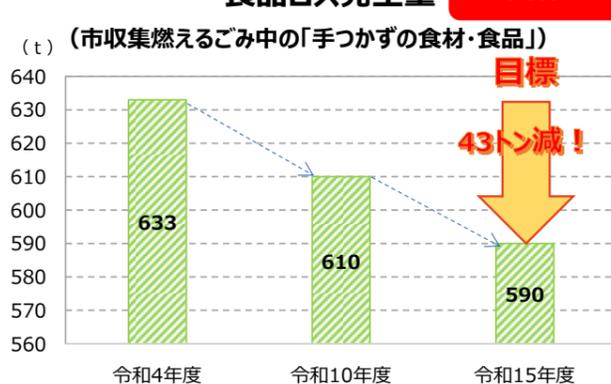
事業系ごみの課題 ▶ ①事業者への情報提供・啓発による意識向上
②搬入ごみチェックによる指導

食品ロス削減に向けて



食品ロスとは...
本来食べられるのに
捨てられてしまう食品

食品ロス発生量 目標値



- 主な施策
- 発生抑制
 - ・飲食店での食べきりキャンペーンの推進
 - ・消費者教育や講習会などの環境学習
 - 有効活用
 - ・フードドライブ、フードバンク活動及びフードシェアリングサービスの実施
 - 再生利用
 - ・生ごみ堆肥化容器や生ごみ処理機の購入補助制度
 - ・給食調理場、事業者の食品リサイクル